

平成30年 労働安全衛生調査（実態調査）

厚生労働省ホームページより（報道発表資料 令和元年8月21日）

2020年対策の労働安全衛生調査に関しては、最終の資料になります。

【労働者調査】

1 仕事や職業生活における不安やストレスに関する事項

(1) 仕事や職業生活に関する不安、悩み、ストレスについて相談できる人の有無等

現在の自分の仕事や職業生活での不安、悩み、ストレス（以下「ストレス」という。）について相談できる人がいる労働者の割合は **92.8%** [平成29年調査 91.8%] となっている。

ストレスを相談できる人がいる労働者について、相談できる相手（複数回答）をみると、「**家族・友人**」が **79.6%** [同 85.3%] と最も多く、次いで「**上司・同僚**」が **77.5%** [同 77.1%] となっている。

また、ストレスについて相談できる相手がいる労働者のうち、実際に相談した労働者の割合は **80.4%** [同 84.2%] となっている。実際に相談した労働者について、相談した相手（複数回答）をみると、

「**家族・友人**」が **76.3%** [同 81.7%] と最も多く、次いで「**上司・同僚**」が **69.7%** [同 71.0%] となっている。

(2) 仕事や職業生活に関する強いストレス

現在の仕事や職業生活に関することで、強いストレスとなっていると感じる事柄がある労働者の割合は **58.0%** [平成29年調査 58.3%] となっている。

強いストレスとなっていると感じる事柄がある労働者について、その内容（主なもの3つ以内）をみると、

「**仕事の質・量**」が **59.4%** [同 62.6%] と最も多く、次いで「**仕事の失敗、責任の発生等**」が **34.0%** [同 34.8%]、
「**対人関係（セクハラ・パワハラを含む。）**」が **31.3%** [同 30.6%] となっている。

2 受動喫煙に関する事項

職場で受動喫煙がある労働者の割合は、

「ほとんど毎日ある」の 9.3%、

「ときどきある」の 19.6%を合わせて 28.9%となっている。

職場での喫煙に関して不快に感じること、体調が悪くなることの有無をみると、

「不快に感じること、体調が悪くなることがある」とする労働者の割合は 17.2%[平成 29年調査 19.1%]となっている。

これを「職場で受動喫煙がある」とした労働者でみると、「不快に感じること、体調が悪くなることがある」とする労働者の割合は 43.2%となっている。